

「みんなが神さまのこどもになれますように」

教会暦は11月30日(日)より新しい年を迎え、アドヴェント（降臨節）の期節となりました。私たちの信仰生活の旅の目的は「御国の到来」、主イエスの再臨を待ち望むことにあることを改めて心に留めて新しい1年を過ごして参りたいと思います。

幼稚園や子ども園の礼拝の中で、次のようなお祈りがあります。「世界中の人たちがみなかみさまのこどもになれますように。」私はこの祈りの言葉に正直、違和感を抱いておりました。どのような意味がこの祈りの言葉の背後にあるのだろうか。「神さまの子どもになる」とはどういうことなのか。みんなが洗礼を受けて主を信じるようになりますよ、ということの意味なのだろうか…。しかし、幼稚園や子ども園に通っている子どもたちに洗礼を受けさせることがキリスト教保育の目的ではありません。幼い頃からこの世界を創造された方の存在を知り、どんな時も共にいて自分らしく生きていけるように歩んでくださる主イエスの愛の中で子どもたちが自己肯定感を育む土壌を丁寧に耕していくことがキリスト教保育の根幹だと思います。その中で、幼子たちが「この世界に産まれてきてよかった」「自分は必要とされている」という思いを持ち続けていってほしいと私はいつも願っています。

先日、『かみさまのゆめ』という素敵な絵本に出会いました。「さあ、神様の夢がかなうようにてつだってくれないかい？」と子どもたちに優しく語るのは南アフリカ聖公会元大主教のデズモンド・ツツ大主教です。祖国の人種隔離政策（アパルトヘイト）の撤廃と、平等・正義・平和をもたらすために半生を捧げたことを評価され、1984

年にノーベル平和賞を受賞されました。平和と赦

しを訴える声として、世界的に重要な役割を果たされた方です。

絵本のことばを紹介しますね。

かみさまの ゆめはね

- ・たがいに よろこびを分かち合うこと
- ・たがいに おもいやること
- ・みんなが たがいにてをつなぐこと
- ・いっしょにあそび、えがおでいること
- ・みんなが きょうだいしまいなんだってきづくこと

かみさまのゆめは どうすればかなうかしってるかい？

わけあったり、たいせつにしたり、おもいやったりするなら……

てをつないだり、あそんだり、わらったりするなら、わたしたちみんな かみさまのこどもだから みんなはひとつの かぞくなんだってきづくなら……

そのとき かみさまの ゆめは かなうんだよ。

私たちの生きる世界は、「かみさまのゆめ」とは正反対に向かっています。自分たちが一番、自国ファーストと声高らかに叫び、外国籍の人を排除しようとする風潮が高まっています。

私は「世界中の人たちがみなかみさまのこどもになれますように」の祈りこそ今まさに大切にしなければならないと思うようになりました。私の中にあった違和感、疑問の答えが与えられました。「みんなが 神様の子どもであることに気づくことが できますように」と祈り続けたいと思います。（司祭 越山 哲也）